

## 仙台市不登校対策検討委員会 報告書 概要版

## 1 仙台市の現状の把握

## (1) 本市の実態や現状の把握

文部科学省の「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査」の結果から、本市の平成 29 年度の不登校児童生徒数は 1,569 人(小学校:359 人、中学校:1,210 人)で前年度に比べ約 140 人増加している。また、不登校児童生徒の出現率についても、平成 29 年度については、2.01 と高い割合となっており、年々増加傾向が見られる。

## (2) 不登校児童生徒の実態把握に関する調査について

①対象：学校(185校)、担任(1,128名)、不登校を抱える保護者(96名)、  
SC・SSW(111名)

## ②調査結果からの考察

- ・学校側と、SC、SSWを含む専門家、専門機関との連携が十分ではない。
- ・在籍する学級へ入れない児童生徒のために、ほとんどの学校で「別室」が設置されているが、そこでの対応は必ずしも十分とはいえない。
- ・学習のつまずきや発達障害等が、不登校の一つの要因となっている可能性がある。
- ・不登校は小4で出現率が上がっている。
- ・不登校児童生徒への対応について、保護者と学校側の認識のずれがある。

## 2 提言

不登校対策では学校や児童生徒等の状況や状態に応じた段階的対応・支援を考慮する必要がある。その観点から、普段の学校生活における安定した基盤づくりと不登校支援を段階的に分けて提言をまとめた。

## (1) 安定した学校生活の基盤づくり

## ①学校組織・体制の改善

- ・学校環境を改善・整備  
教員の多忙化解消、35人以下学級等の少人数学級の編制、副担任制の導入等
- ・学校マネジメント力の向上(チーム支援体制・相談体制の整備)
- ・「不登校対策専任教諭」(仮称)の配置
- ・学校訪問対応相談員の増員
- ・「在籍学級外教室」(仮称)を設置
- ・「児童生徒理解・教育支援シート」(仮称)を活用した連携システムの構築・導入

## ②個々の児童生徒の実態に応じた支援体制の充実

- ・個々の児童生徒の状況に応じた早期からの支援を可能とする学習支援体制の充実
- ・教職員による適切な集団づくりや人間関係づくりの促進と児童生徒に対するSST等の教育的支援の充実。
- ・ユニバーサルデザインを考慮した学校環境整備、小学校低学年の段階からの発達障害支援体制の整備

## ③研修体制の充実

- ・教職員対象の研修
- ・児童生徒を対象とした心理教育等の充実
- ・保護者を対象とした研修・セミナーの充実

## ④専門スタッフや関係機関の有効活用

- ・SC・SSWの有効活用と効果的な配置・派遣方法に関する検討
- ・専門機関等との連携促進

## (2) 不登校児童生徒への支援

### ①支援体制の推進・整備

- ・各学校に居場所や適応支援の機能をもつ「在籍学級外教室」(仮称)を設置
- ・校内不登校対策委員会等のチーム対応を強化

### ②不登校児童生徒に対する支援の充実

- ・S C・S S Wの確保や資質向上と有効活用の推進
- ・「在籍学級外教室」(仮称)の活用やI C T機器を利用したオンライン学習の充実  
フリースクールとの連携、個々の特性や学力に応じた教材・指導方法の開発
- ・再登校時の適切な支援・環境の在り方、及び中学校卒業後の支援体制の整備
- ・特別支援学級や特別支援学校に在籍する不登校状態にある児童生徒に対する支援の在り方に関する検討

### ③研修体制・内容の充実

- ・管理職を含む教職員を対象とする不登校理解
- ・不登校児童生徒の保護者を対象とする不登校理解に関する研修・支援
- ・一般市民及び企業を対象とする不登校理解に関する研修・セミナーの充実

### ④保護者支援

- ・不登校児童生徒の保護者に対する心理支援、及び進路等に関する情報提供や相談体制の充実
- ・保護者どうしのネットワーク(親の会)活動への支援

## (3) その他

### ①不登校対策検討・評価委員会(仮称)の設置

#### \* 仙台市不登校対策検討委員会開催状況

平成29年12月に第1回の不登校対策検討委員会が開催されてから、8回の検討委員会12回の作業部会を開催した。